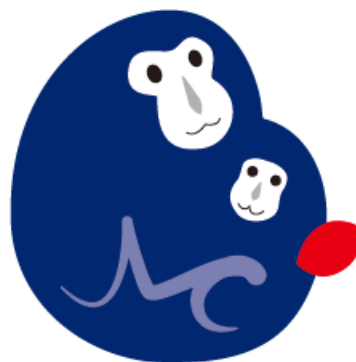


F A X 送 付 状

送信先 報道各位

送信枚数 本紙を含めて 3枚

送信日 2019年10月11日



JAPAN MONKEY CENTRE

10/17(木)動物慰霊祭を執りおこないます

例年、創立記念日には、今まで日本モンキーセンターで亡くなった動物たちに感謝の意を表し、動物慰霊祭を執りおこなっております。今年は、20種35頭の霊長類が亡くなり、計6,682頭を供養します。霊長類以外の亡くなった飼育動物たちも併せて供養いたします。

今年、日本モンキーセンターは63回目の創立記念日を迎えます。この慰霊祭では、飼育担当者はもちろん、学部や事務部のスタッフも全員が順次参列し、手づくりで心のこもった進行を計画しています。一般のみなさまも、果物（バナナを除く）や野菜、栗やどんぐり、樹木の苗木などの「お供えもの」を持ってご参列いただけます。お供えものは後日、飼育している動物たちのために役立てます。お供え物の受け付けは、10月13日（日）から開始し、慰霊祭の当日の10月17日（木）11時まで入園ゲート前で行っております。※宅配でも受け付けます。台風の進路次第で変更になる場合があります。

今年の慰霊祭では、3月に当園の親善大使になられた女優の竹下景子さんからの挨拶もあります。たくさんの方にご参列いただきたく、貴メディアにてご紹介いただければ幸いです。

創立63周年・動物慰霊祭概要

日時：2019年10月17日(木)11時45分～（雨天決行・テントあり）

場所：ビジターセンター左手奥 動物慰霊碑(猿塚)前

進行：事務部長 林 美里

プログラム：11時45分 開祭挨拶 学術部長 友永雅己

大使挨拶 親善大使 竹下景子

飼育員から(感謝のことば) 飼育技術員 奥村太基、舟橋昂

12時～ 献花、献果

12時10分頃 終了

資料：今年亡くなった動物たち（一部）

■アフリカ館（当時）担当：奥村太基 アビシニアコロブス キクマサ（♂）



2019年6月11日永眠。

キクマサは2000年9月8日に日本モンキーセンターで生まれました。優しい顔つきと、優雅な白と黒の体毛で来園者から人気のあるオスでした。アビシニアコロブスのオスは、こどもにあまり興味がないと言われていますが、キクマサはこどもが大好きでした。生まれたばかりのこどもに近付こうとすると、抱いている母親に拒まれ、少し悲しそうに見える表情をしていました。母親から離れたこどもと遊ぶキクマサは、本当に楽しそうでした。

◆感謝の言葉読み手紹介 奥村太基（おくむら たいき）26歳 飼育歴5年目

アフリカ館（アビシニアコロブス、サバンナモンキー、タラポアンなどアフリカに生息する霊長類）を主に担当。今年7月より、バックヤードの担当となる。キクマサが亡くなる時、アフリカ館を担当。動物の飼料を管理する飼料班も担当。

■アジア館（当時）担当：舟橋昂 アカゲザル ローレイ（♀）

2019年6月12日永眠。

ローレイは、1991年3月19日に旭山動物公園から来園したアカゲザルであり、日本モンキーセンターの中でも高齢な個体でした。ローレイは、誰でも見分けられる個性的な顔から来園者の中にも多くのファンがおり、「ローレイへ」と名指しで色々なたべものを寄附いただくことも多かったです。モンキーセンター内でのイベントやSNSでも大活躍で、名前を検索して来園された方の反応を見るのも密かな楽しみでした。



◆感謝の言葉読み手紹介

舟橋昂（ふなはし たかし）28歳 飼育歴3年目。

アジア館担当から、7月に北エリアの担当となるヤクシマザルやアヌビスヒヒ、テナガザルの暮らすモンキーセンターの北側を担当。公式ブログ「飼育の部屋」やSNSを管理するWeb班も担当。

Webサル図鑑より種名紹介

アビシニアコロブス



英名 Abyssinian Colobus
学名 *Colobus guereza*
CITES II
IUCN LC



分布 ナイジェリアからエチオピアにかけて、ケニア、タンザニア

会える場所 **アフリカ館**

- 体は全体に黒く、顔の周囲、尾の先と、背中を縁取るように白い毛が生える。白い毛の生え方は地域によってバリエーションがある。
- 生まれたばかりの赤ん坊は真っ白で、約3か月でおとなと同じような配色になる。
- 手の第1指を喪失している。
- 主に木の葉を食べる。果実なども食べる。
- 木の葉を消化するため、胃が3室に分かれており、前胃で嫌気性細菌によってセルロースを分解するようになっている。
- 樹上四足性のサルで、グエノンなどの他の樹上四足性のサルにくらべ、跳躍することが多い。

アカゲザル



英名 Rhesus Macaque
学名 *Macaca mulatta*
CITES II
IUCN LC



分布 インドから中国にかけての大陸部に広く分布

会える場所 **アジア館**

- ニホンザルと同様、複雄複雌の群れをつくり、オスが集団を移籍する。
- 実験動物としても世界中でひろく飼育されている。
- Rh血液型は、アカゲザルの英名の"Rhesus"に由来する。

お問い合わせ先

公益財団法人日本モンキーセンター 〒484-0081 愛知県犬山市犬山官林 26

TEL : 0568-61-2327 FAX : 0568-62-6823 メール : info@j-monkey.jp

担当 : 赤見、江藤、安倍、坂口、田中、荒木、辻内

※その他の イベント情報などは、過去のプレスリリース原稿、

または Web サイトにてご確認ください。 <http://www.j-monkey.jp/event/>